



# 第6回



# まちづくり推進会議

平成25年8月1日 発行

平成25年6月20日（木） 18：30～20：30開催 出席委員数～25人 事務局出席者数～17人

## 訓子府町まちづくりの現状と予算

※新たにスタートしたまちづくり推進会議は（新任委員12名、再任17名）の出席でまちづくりの現状を福祉、子育て、産業、生活環境、学習、文化、スポーツ活動、財政、人口など分野別の町統計による資料と平成25年度予算概要を委員に配り説明をしました。

主な意見交換は次のとおりです。

### ◆安心して暮らせる福祉優先の「まちづくり」について

委員：国民健康保険税について、本町の負担額ほどの程度か。

町：資料では平成23年度一人当たり11万9千円であります。道内で20番目ぐらいの位置にあります。

委員：数年前にはゲートボール場の活発な利用や元気なお年寄りが多いことなどから、訓子府は低いランクの方と説明を受けたことがあります。現在は逆転したということですか。

町：今言われたのは医療費の負担であり、一人当たりの医療費は道内で120番台に位置しています。保険税は高い、医療費負担は低いのですが国民健康保険会計での収支は赤字になっています。町では平成24年度で6千4百万円を予算計上していますがこれを保険税で負担するとなるとすごく保険税が高くなってしまいます。そういうことから運営主体を都道府県にするよう要望していますが赤字前提の会計は都道府県も反対をしている状況であり、医療制度は国の負担率を上げることも含めて今後大きな議論になっていくと思います。



委員：保険税の滞納により悪質な場合は保険証を出さないことがあると聞いているが、そういった事例はないんですね。

町：滞納するごとに6ヶ月、3ヶ月の短期証を出します。さらに悪質なものには資格証明書を出し、病院で医療費を全額支払いしそのあと保険から支払いするという制度であり、現在1名の方が対象となっています。

町では戸別に訪問するなど抱えている事情を考慮しながら進めていることが実態であり、資格証明書を出すことを極力避けるよう努めています。

委員：配食サービスというのは給食センターなどで実施しているのですか。また範囲はどのようになっていますか。

町：配食サービスは、障がい者団体であるNPO法人に委託をしているものであり、対象の方は65歳以上で一人暮らし、二人でいても一方が入院されている方など

調理が困難になった方を対象としております。その他に65歳以下でも調理困難な方5名も含め34名に配食しています。

委員：作っている人には報酬があるのですか。

NPO：10数名の障がいを持った方が通っており、利益の1食50円程度を障がい者法人 を持った方に分配しています。

#### ◆農業や商工業の発展をめざした元気な「まちづくり」について

委員：酪農関係の仕事をしていますが、個人の経営規模が大きくなり戸数が減少している状況にあり、もう少し農家の戸数減少を防ぐ方策を考えて欲しい。

町：畜産生産額の推移ではほぼ横ばいで進んでいますが、平成元年、25年前には酪農家が105戸、頭数4,800頭が平成22年には54戸、5,500頭になっています。一戸当たりの頭数が飛躍的に増え、酪農家の方が頑張っている状況にあり共同で飼料を調整するTMR事業を実施しているケーズフィードサービスや若い後継者も増えていることなど酪農環境が変わってきています。

そういうなか、町では共済事業への支援、乳検や酪農ヘルパー、酪農振興会への補助、牧場事業の継続、草地更新など支援を行っていますし、今後も支援を続けてきます。ただ、牛舎などの設備が老朽化していることもあり、今後の課題かなと思っています。



委員：商工業振興の関係では、住環境リフォーム補助については1件20万円が限度ですが、来年も継続して欲しいと思います。

町：今年予算は550万円であり、商工会が実施主体で行っていますが、ほぼ取りまとめが終わったと聞いています。

昨年までは事業費の下限が30万円でしたが、様々な声を聞いたなかで今年20万円に拡大しながら行っています。来年度も要望も見ながら検討していきます。

委員：この事業は全額町の持ち出しで行っているのですか。

町：事業目的に合った補助金はありませんけれども、起債借入を認めてもらい実施しているところであり、借入金の返済に併せ7割が交付税で戻ってくるという有利な借入金で行っています。

委員：この事業は上限が100万円補助金が20万円となっていますが、その枠を超えもう一度行うことなどは考えていないのですか。

町：補助金額が20万円までは数回の利用は可能ですが、当面ひとまわりは実施していこうと思います。

委員：北大サテライト事業は、最近動きがあまり見えないが、前に進めてほしい。

町：平成21年度から実施している事業であり、当初は北大の大学院から研究者が北みらい農協に常駐し、農業青年や女性の学習会や講演会などを活発に行っていましたが昨年からからは研究者の派遣ではなく、大学院生が実習に入り研究や青年、女性との学習会、資格取得に向けた講座や北大マルシェとって北大構内での物産市などにも出店してい

ます。かなりの数の論文や報告書が出されていますので、有機農業や労働調査などの研究成果の発表も町内で行う方向で検討しています。

#### ◆環境にやさしい住みよい「まちづくり」について

委員：除排雪では新しくロータリー車を購入したようですが、町のなかが除排雪され非常に評価しているところです。また、旧訓子府駅周辺の整備は具体的に町民の目に見える形になるのはいつぐらいになりますか。

町：駅周辺整備については、幸町線が間違いなく通行可能となります。そのほかバスロータリーや乗降スペースなどの整備を予定しており、昨日入札したところであり7月には徐々に姿が見えてくると思います。

#### ◆訓子府町の財政状況について

委員：グラフを見ても良くわからない部分があります。特に他の町に住んだことがないので他の町と比較して例えば福祉では自分の町がどのようになっているのかなど比べるような資料があれば更にわかりやすいと思います。

町：本町の一般会計予算は概ね38億円で、この金額に収入が不足する場合は貯金を取り崩すのですが、平成25年度は1,100万円を取り崩し、多い年度は2億7,500万円あったので収入と支出のバランスは取れてきていると思います。借金については多いときは78億円あったのが今は48億円まで減ってきています。貯金についても1年間の一般会計予算に近い35億円まで増えてきています。

管内的にはどうかという中くらいの位置です。国の指標である実質公債費比率では私が町長になった時はおよそ19%でありましたが、今は12%程度までになりました。

一般的には30%を超すとレッドカード、25%を超えるとイエローカードとなります、こうなると事業を行うときに国の許可が必要となり、例えば町で実施している小学生の医療費助成などは出来ないこととなります。

政策的にどの町が進んでいるかということは一連での比較は難しいと思います。小学生の医療費助成は月30万円ほどになっていますが、市のような大きいところでは子どもの数も多く難しいし一方では大きい市に設置されている施設、例えば町に屋内スケートリンクやカーリング場がないなど色々なことがあると思います。



委員：借金の支払いが6億程度とあるがこの数字はどこからでてきているのですか。

町：平成24年度の借入残高は48億7,000万円あり、主に建設事業に対する借入金であります。元金返済が5億5,000万円、利息分が6,500万円程度あるということです。国からの借り入れであり、償還期間は12年から20年となっています。

#### ◆訓子府町の人口の推移について

委員：直近の人口推移では15歳から19歳の人口が減少しているなか、0歳から4歳の人口が増えている。これは今言われた医療費の助成や子育て支援による効果ではないか。

町：教育長の話では、第2子、第3子が増えてきているということや子育て年代が増えてきている傾向がありますが、ただそれが医療費の助成、子育て支援センターやゆめゆめ館の建設が要因かどうかは決定的なものとは言えない状況にあります。

それともう1点、住宅がなくて困っています。数年前までは町営住宅も空き家がありましたが、今は競争率が高く困っています。広い家を管理出来なくなったお年寄りの住み替えや空き家を若い人へ斡旋するなどの政策も必要となってくると思います。



#### ◆その他

委員：この会議については、億単位のプロが作った予算の金額を素人の私達に是非を問うような在り方ではなく、例えばこれから増える独居老人について、役場の方が訪問等の対応をしていることがあり、3日に1度の訪問であればその間に何が起るかわからないなか周りにいる私達に何ができるのか、何を望まれているのか確かなものがわからない。

子育て支援では子育て中のお母さんが何を望んでいるのかなど難しいことですがそういった話し合いが出来れば良いと思います。

お金とか資料に沿って話を進めるのではなく、一つひとつ今ある問題に対して自分に関係のあることとして話し合いが出来ればと思います。

町：行政がやるべきことと地域の皆さんの町民力、自治力といったものでやることはないのかとのことですが、例えば、介護の問題では65歳以上の人口が1,600人いて介護認定者が264人います。そのうち73人の方が施設サービス、148人の方が居宅サービスを受けているといった数字上の事はわかっても、実際の生活の中でどんなことで困っているのか地域住民の皆さんが成すべきこと、やれることもっと言うやらなければいけないことといのは何だろうかということ具体的わかるような資料で話し合いをしたいとのことですので次回の柱にさせていただきたいと思えます。



委員：会議については、説明し何か意見を出してとの流れできているが、せつかく地域を代表して29名の委員さんが出席されているので、地域の小さなことを中心とした話し合いが出来ないか。皆さんから一人一回でいいから発言してもらおうような場も必要に思われるし、せつかくの場ももったいないと思います。

町：全町的な課題やそれぞれの差し迫った課題について議論し提案する、あるいは意見を受けるといったワンステップレベルアップすることは私自身もそう思っています。

次回の会議は、委員の皆さまから特にこういう議題での議論をしてほしい。また提案して意見を受けたいことについて折り返し返事をいただき、それに基づいて話し合いをさせていただくことと進めていきます。

※まちづくり推進会議の議案は、訓子府町図書館内「訓子府町まちづくり情報コーナー」で閲覧ができます。